

第1分科会

テーマ「小中連携 主体的に考え議論する道徳 ～議論するための発問の工夫～」

提 案 者	庄原市立高野中学校
司 会 者	庄原市立口和中学校
記 録 者	庄原市立比和中学校
指導助言者	広島県西部教育事務所

1 はじめに

庄原市は周囲を山に囲まれた自然豊かな地である。市内には小学校 19 校と中学校 7 校、県立学校及び特別支援学校がある。その内、高野中学校区は最北端に位置し、中学校と小学校が 1 校ずつあり、児童生徒合わせて 122 名在籍している。

本中学校区は、「人や地域と進んでかかわり、思いやりと感謝の気持ちをもって行動する子供」の育成をめざしており、平成 27・28 年度『『道徳教育改善・充実』総合対策事業（メニュー 2）』の指定を受け、道徳教育推進加配措置により、TT での授業を行い、道徳教育推進を中心とした小中連携を行った。今年度は、今までの取組を踏まえて、「体験活動と関連させた授業づくり」「主体的に考え議論する授業づくり」「評価方法の工夫」の 3 本柱で小中連携をして取り組んでいる。

2 研究のねらい

平成 27・28 年度に指定を受けたときの取組を発展的に継続し、本中学校区の今年度の研究主題を次のとおり設定した。

<研究主題> 心豊かに人とかかわり合う児童生徒の育成 ～主体的に考え、議論する道徳の授業づくりの工夫を通して～

「体験活動と道徳の時間を効果的に関連させるとともに、主体的に考え、議論することによって道徳的価値を深めていける道徳の授業づくりを行えば、児童生徒は、人や地域と進んで関わり、思いやりと感謝の気持ちをもって行動できるようになるであろう。」という研究仮説をもとに研究を進めることにした。

3 研究の内容

9 年間を見通した児童生徒の育成を目指し、小中連携による推進体制を構築した。小中合同での授業研究を中心とした研修は、「体験活動」部会、「授業づくり」部会、「評価」部会に分かれ、取組を 3 本柱で進めている。3 部会は、それぞれ次のようなことに取り組み、研究を推進している。

「体験活動」部会では、体験活動との関連を考えた年間計画を作成し、道徳授業と体験活動との関連を明示した校内掲示に取り組んでいる。「授業づくり」部会では、発達段階ごとの目指す子供像の設定や授業づくりイメージ図を作成し、授業研究により改善指導案の作成に取り組んでいる。「評価」部会では、道徳科の評価方法の工夫について取り組んでいる。授業の振り返り、体験活動後及び学期ごとの振り返りを「道徳ファイル」に蓄積することや、授業の振り返り際にはどの価値項目について学んだかが自分自身でわかるようにワークシートを分類してファイリングすることを実践している。

イ 授業づくりのイメージ図

児童生徒に「考えたい」という思いをもたせた上で、議論をするための具体的な手立てや授業展開、発問を工夫することで、「主体的に考え、議論する道徳の授業」になるようにしている。

①中心発問

教材の山場を踏まえた多様な意見が出るよう工夫する。例えば、「自分が〇〇だったらどうするか。」「何が〇〇を変えたか。」

②基本発問

中心発問で深く考えさせるために必要な基本発問を精選する。例えば、「〇〇はどんな気持ちか。」

③補助発問・繰り返し発問

- ・中心発問での議論を踏まえて、多面的・多角的に深く考えることができるようにする。例えば、「逆の立場だったらどうしてほしいか。」
- ・自我関与させ、生き方について考えさせたりする補助発問・繰り返し発問をする。例えば、「自分だったらその人物のようにできるか。できないとしたらそれはなぜか。」

(3) 評価方法の工夫について

ア 授業の振り返り

評価の見取りとして、授業で使うワークシートには、「友達と交流、議論することで新たに気付いたことを書く欄」と「振り返り欄」を必ず設けている。それぞれに、電球マークとハートマークをどの学年も共通してつけることで、どこで評価をするのかを明確にしている。

イ 体験活動及び学期末の振り返り

道徳の時間には毎時間、振り返りを書く。更に、自分の成長や気付きなどについて振り返るために体験活動後及び学期末に、ワークシートへ記述させている。また、ワークシートは道徳ファイルに蓄積し、成長や変容を見取るようにしている。

ウ 授業の振り返りのファイリング

『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」において、道徳科の評価にあたっては「個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること」とあることから、その手立ての1つとして、「A 主として自分自身に関すること」「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の4つの観点でワークシートを分類してファイリングするようになった。これにより、児童生徒自身が、観点を意識し、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を振り返ることができる。また、観点ごとにまとめると変容も見取りやすいと考え、実施している。

図2 授業づくりイメージ図

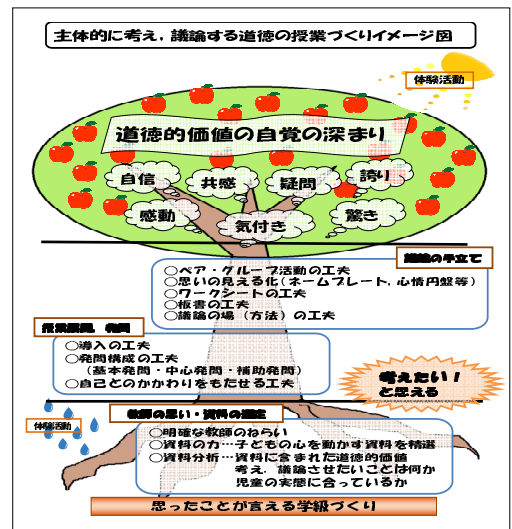


図3 授業の振り返り

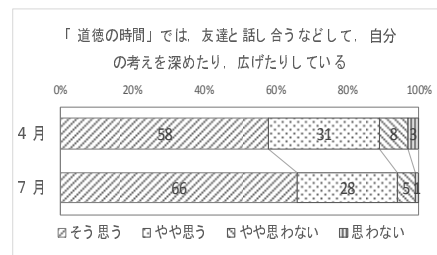
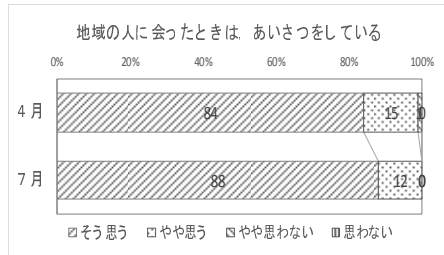
図4 体験活動及び学期末の振り返り

5 成果と課題

(1) 成果

ア 意識調査について

児童生徒に道徳の時間に関する意識調査を4月と7月に実施した結果を一部抜粋する。



肯定的評価は100%になり、進んで地域にかかわり合う児童生徒の育成ができていると考える。

肯定的評価は88%から94%に増加した。ペアやグループ活動を効果的に位置づけることや授業の振り返りの視点をいれる等の取組をしている成果だと考える。

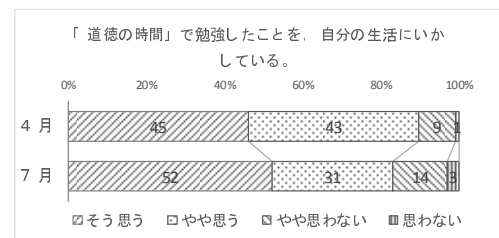
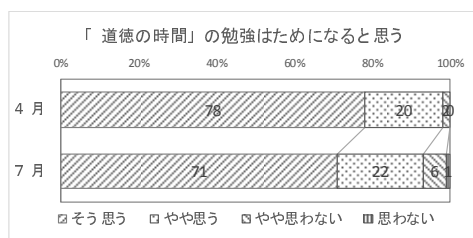
イ 3本柱について

- 体験活動との関連については、体験活動と関連付けた道徳の授業を実施することで、児童生徒はねらいとする道徳的価値について実感をともなった理解をすることができた。
- 主体的に考え、議論する授業については、議論の場面で、自己とのかかわりを意識した発問をすることで、質問したり、体験を基に意見を述べたりすることができる児童生徒が増えた。
- 評価方法の工夫については、ワークシートを分類してファイリングするようにすることで、児童生徒自身が道徳的価値についての理解を基に、自己を振り返ることができてきた。

(2) 課題と今後に向けて

ア 意識調査について

児童生徒に道徳の時間に関する意識調査を4月と7月に実施した結果を一部抜粋する。



肯定的評価は98%から93%に減少した。自分とのかかわりを感じることができる場を増やして、道徳の時間に学習したことが日常生活に結びついている実感をもたせる必要がある。

肯定的評価は88%から83%に減少している。授業の中での自我関与の工夫や掲示物を通して日常の姿を振り返る工夫をしていく必要がある。

イ 3本柱について

- 体験活動との関連については、体験活動と関連付けた道徳の授業を今後も計画的に実施し、その後児童生徒が自分の生活につなげていくことができる工夫が必要である。
- 主体的に考え、議論する授業については、中心発問の設定が難しいという課題があった。そこで、明確なねらいの設定や繰り返し発問・補助発問の工夫をしていくことが必要である。
- 評価方法の工夫については、児童生徒の変容を見取り児童生徒の授業への意欲の向上や授業改善につなげたりしていくことが必要である。